

保健室の環境で生徒のストレスを和らげられるのか

教育・保育 14 班

3119 佐々木都菜

要旨

本研究は、保健室の環境が生徒の心理的負担を軽減できる可能性について考察したものである。現在の保健室には「治療目的の場所」というイメージが強く、相談目的での利用は一般的ではないとされる。そのため、学校に養護教諭を二名体制で配置することで、より多くの生徒が悩みを打ち明けやすくなり、相談機能が向上すると考えられる。また、男性養護教諭の増加は、多様化する生徒の悩みに対応する上で有効であると推察される。

1. はじめに

近年、生徒の悩みは多様化し、その数も増加傾向にある。令和 6 年の統計によれば、19 歳の自殺者は 800 人に上る。筆者の母校においても、相談目的で保健室を訪れる生徒は少なくない。今後、保健室がより柔軟に相談対応できる環境を整備する必要性が高まっている。

2. 研究の目的

保健室の環境が生徒の心理的負担を軽減できる可能性について、具体的にどのような条件や環境が必要とされるかを明らかにする。

3. 仮説

養護教諭を二名体制にすることで業務負担が軽減され、生徒が相談しやすくなる。

- 養護教諭の人数増加は、男性養護教諭を含め多様な悩みに対応する上で有効である。
- 来室目的の幅を広げ、保健室を「相談できる場所」として定着させることが重要である。

4. 研究方法

全国の高等学校における養護教諭の配置人数、保健室の来室理由、雰囲気に関するアンケート調査を実施し、その結果を分析した。

5. 研究結果

(1) 養護教諭の人数

- 1名:37%
- 2名:60.8%
- 3名:3.8%
- 4名以上:6.9%

(2) 保健室の来室理由(複数回答可)

- 怪我の治療:75人
- 体調不良による療養:106人
- 相談:26人
- その他:25人

(3) 保健室へのイメージ

多くの生徒は保健室を「治療の場」と捉えており、「相談の場」としての認識は低い。

6. 考察

調査の結果、以下の課題が明らかになった。

- 養護教諭は一校あたり二人の場合が多いが、業務負担が大きい。
- 生徒の来室理由は体調不良や怪我が中心で、相談利用は少ない。
- 保健室に関する固定的イメージが相談行動を妨げている可能性がある。

したがって、保健室を「相談できる場所」として定着させるためには、養護教諭の複数配置、男女双方の教諭の配置、多様な相談ニーズへの対応力向上が必要である。

7. おわりに

日本では約三人に一人が生涯で精神疾患を経験すると言われており、若年層における精神的支援の重要性は高い。保健室が「特別な場所」ではなく、生徒にとって身近で安心できる相談先となるような環境整備が求められる。本研究の知見は、今後の学校保健政策の改善に資するものである。

参考文献

1. 九州女子大学短期大学学術リポジトリ. <https://core.ac.uk/reader/236390100>
2. shrink～精神科医ヨワイ～. <https://grandjump.shueisha.co.jp/manga/shrink.html>
3. 保健室のせんせい.. https://comic-walker.com/detail/KC_003398_S2episodeType=comics

AIに対抗し、共存するために必要な能力は何か

教育保育1班

【要旨】

近年、AIの発達により、シンギュラリティという地点に注目が集まっている。私たち人間は、そのシンギュラリティを回避し、AIと共存していくためにはどうしたら良いのだろうか。今回は、AIへの「対抗」の面から「読解力」や「独創力」に着目し、どのような能力が必要でどのように身につけたら良いか、対策と予想される効果を考察していこうと思う

1 はじめに

近年、AIが発達し、シンギュラリティ(AIが人間の能力を超える)という地点に注目が集まっている。そんな中、私たちがシンギュラリティを回避するためには何が必要なのかを今一度考える必要がある。

2 研究の目的

シンギュラリティを回避し、AIとの共存を測る上で、今後私たち人間はどのような能力が必要で、どのように養っていけばよいかを考察する。

3 仮説

AIには任せることの難しい能力や、AIをコントロールするために必要となる能力が重要となる。

4 研究方法

インターネットや本で情報収集を行った

5 研究結果

AIによって無くなると予想されている仕事と今後残ると予想されている仕事を調べると、前者は「ルーティンワーク」と呼ばれる、毎日繰り返し行われる仕事であり、後者はクリエイティブなことをする仕事である。後者の具体的な仕事を調べ、共通点を考えると、「独創性」や、「コミュニケーションが必要」であることが考察される。この「独創性」におけるAIの弱点を分析してみると、

- ①何万もの情報から1つのことを学んでいること
- ②定められたフレームの中でしか応用を効かせることができないこと
- ③文章を文字列として認識していること

この3つが挙げられる。このことから考えられる、今後私たち人間に必要とされる能力は、

- ・一つのことを聞いて十のことを知る高度な「読解力」「応用力」「柔軟性」
- ・枠に囚われない「独創的な発想力」

この2つが考えられる。今回は「読解力」に注目していく。

ところが、PISA(学習到達度調査)において、以下のような結果となった。

(PISAとは経済協力開発機構(OECD)が発表した79の国と地域の15歳を対象とした国際学習到達度調査を指す。)

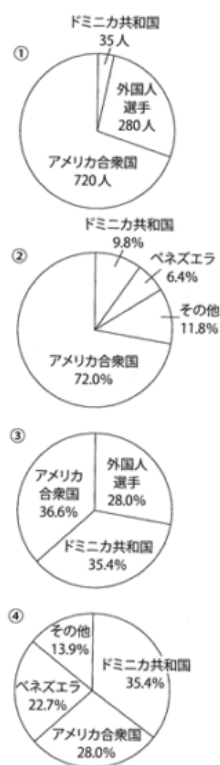


上記のグラフから、日本人の読解力は、2000年～2006年にかけては順位が低下し、その後2012年にかけては15位から5位に上昇。しかし、再び2018年にかけて15位まで低下した。どれも対象となっている国・地域数に比べると高い順位に感じるかもしれないが、日本は世界の中でも移民が少なく、母語が日本語である人がほとんどであるため、上位であること自体はある程度の読解力を持っていれば当然の結果であろう。しかし、問題なのはこの18年の間でここまで順位が変動し、安定していないことである。

加えて、新井紀子「AI vs. 教科書が読めない子供たち」において行われた実験では、埼玉県戸田市の小学6年生、福島県や北海道の教育委員会、彼女がうかがったことのある全国の高校10高、一部上場企業において、ある簡単な問題を解いてもらい、読解力の測定を行った。以下は中高生に取り組んでもらった問題の一部である。

次の文を読み、メジャーリーグ選手の出身国の内訳を表す図として適当なものをすべて選びなさい。

メジャーリーグの選手のうち28%はアメリカ合衆国以外の出身の選手であるが、その出身国を見ると、ドミニカ共和国が最も多くおよそ35%である。

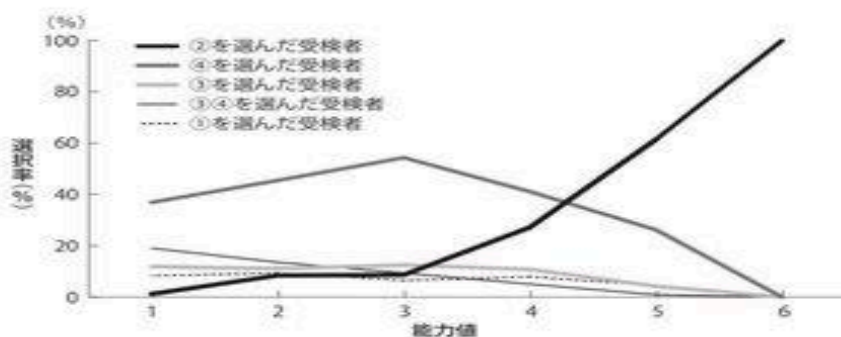


そしてその結果が以下のとおりである。

表 3-5 問 4 の正答率

全国 中学生 (496名)	中 1 (145名)	中 2 (199名)	中 3 (152名)	全国 高校生 (277名)	高 1 (181名)	高 2 (54名)	高 3 (42名)
12%	9%	13%	15%	28%	23%	37%	36%

図 3-4 問 4 の項目特性図



(注) 複数選択可能な問題については、項目特性図が見にくくなってしまうので、受検者が選びやすい上位5つの選択肢を選んで項目特性図を描いている。

全国の中学生、高校生ともに正答率が40%以下という結果がわかった。このことから日本の中高生の読解力が低いことが予想される。では、これからの将来を担う若者の読解力が低迷したままであるとどのようなことが起こるのだろうか。

もし、このまま日本人の読解力が低下し、教科書レベルの文章まで理解できなくなると、まず将来仕事について際に必要な安全マニュアルや作業マニュアルが理解できず、曖昧な状態での作業が続いてしまう。その結果、事故の増加や生産物の品質低下などの問題が発生し、AIによる仕事の代替が進んでしまう。日本は欧米や西欧の国々に比べて移民が少なく、少子化が進んでいる日本は2.60%という低い失業率を維持できなくなり、失業率が高まってしまうことになるだろう。その最悪の事態を回避するには、どのような方法を取ってもやはり読解力の向上が必要不可欠である。

では日本人の読解力低下の原因はなんなのだろうか。私たちが推測した原因は3つである。

1つ目は、単語力の欠如だ。これは「飛ばし読み」と呼ばれる、意味のわからない単語を飛ばして意識する読み方につながり、文を理解できている状態とは程遠くなってしまうため、読解力の低下に繋がる。

2つ目は、AIやインターネットによる文の要約や短文の過剰な使用である。ICTが発達し、古文や英文など、自分の知識が足りないと読むことができない文章も検索するだけで訳が出てきたり、要約をさせて内容を知れたりできるようになった。これはなかなか自分で訳して理解する時間を確保できない学生にとっては時短となり、便利に感じるかもしれない。しかし、単語や文法を知らないまま翻訳することになるため、自分で一から解釈する力が身につかない。

3つ目は、柔軟な思考を失っていることだ。計算問題や一問一答問題のように、答えが決まっているもの考えるのは、答えのない問いを考えるよりも単純である。一方で、答えのない問題に取り組む際はそうはいかない。そのような問題の多くは、複数の情報を整理し、分析し、自分の言葉でまとめる必要があるため、柔軟な思考が必要となる。しかし、授業内でそのような問題を取り扱うことが少ないと、自分の言葉で表現することに苦手意識を持つことにつながってしまう。その結果、文章を解釈することを面倒に感じるようになり、読解力の低下につながる。

これらに対して実際に行われている対策として、単語力の強化のための学習指導要領の決定や授業外での活動、そして、アクティブラーニングが挙げられる。このアクティブラーニングでは、先生が講義形式で説明する受動的な授業をするのではなく、生徒が生徒同士で問題の解決に向けて話し合い、自分たちの結論を出したうえで正しい解答にたどり着く手順を調べたり、先生からの説明が入ったりする、能動的な授業形態のことである。しかし、読解力の低下がうかがえる現在の中高生が本当に意味のあるアクティブラーニングを行うことはできるのだろうか。読解力や予備知識がほぼない状態の生徒が集まっても、間違った方向への解釈が進んでしまうだろう。また、それほど読解力では調べても文章を理解できないかもしれない。つまり、意味あるアクティブラーニングを行えるのは一部の進学校に限られてしまう。

6 考察

では、どのようにして読解力を向上させ、AIとの共存をはかればよいのか。6つの解決策とその効果を考えた。

1つ目は、各科目において文の要約や同義文判定を重視した授業内容を小中学校から行うという策だ。同義文判定とは、複数の文章を読んで同じ意味の文章を判別することである。AIは文章の意味を理解していないという点に着目し、現在AIになくて人間にしかない能力である同義文判定の能力を鍛え、読解力の向上を試みるという方法だ。これによって読解力の向上が見込まれるとともに授業内容の定着というメリットも考えられる。しかし、デメリットとして、この授業を行うためには同義文の正誤判定ができる教員が必要であるため、生徒だけでなく教員も読解力向上に取り組む必要が出てくる。

2つ目は、RST(リーディングスキルテスト)の活用だ。RSTとは、基礎的な読解力を問うための調査のことである。これを小学校のうちから導入することによって、基礎的な読解のトレーニングになることに加え、自分の読解力の推移をデータとして可視化することができるため、読解力向上に何が関係するのか、科学的根拠を持ったうえで研究することができるため、読解力向上にも手を打ちやすくなるだろう。

3つ目は、小論文の科目化、単元化である。小論文では複数の情報を正確に読み取り、それらを比較して自分なりの考えを見つけるものである、そのため、これを科目として授業で扱い、高校入試や大学の一般入試でも扱うことによって中高生の読解力、情報整理力、想像力の向上や柔軟な思考力を身につけることにつながると考えられる。加えて、他よりも柔軟な思考力を持つ生徒が増えるため、大学進学後に成績が上がる生徒の増加も見込めるだろう。

4つ目は、スタディクーポンの導入に加え、各企業や団体による体験活動プログラムの実施である。スタディクーポンを導入し、金銭面の問題で体験活動や学習活動に参加できない子供でも様々な活動に参加できるようになり、子供の柔軟な発想力や知識の強化につながるだろう。加えて、そこに企業や団体の体験活動が加わることで、物事への興味関心の向上から学びの意欲の向上、そして、就職率の増加を見込めるため、地方の働き手不足の対策や子供の貧困による学習機会の減少を防ぐことができる。

5つ目は、大学の入試形態において、総合型選抜(旧AO入試)の枠の拡大、一般化である。総合型選抜では基礎的学力だけでなく、その大学のアドミッションポリシーに合致する生徒を見極めるために、小論文や面接試験を通して入学者が選抜される。これによって、基礎的学力と柔軟な思考を持ち、今後の社会に必要な、AIに対抗する能力を持つ人材が増えるとともに、各大学の理想の生徒像に合う人材を集めることができるため、研究分野の発達も促せると考えられる。

7 おわりに

今回はシンギュラリティと向き合うという問題について、AIに対抗する人材を育成するという視点から読解力に着目して探究を進めてきた。しかし、考察で挙げた対策の実現が国レベルの規模であり、実施方法が現実的でないものもある。また、その後の具体的な影響についても考察しきれていない部分があるので、疑似的な調査を実施するなどしてその効果がどれほどかなどを考察していきたい。

また、思考力よりも知識量が重視され、学歴を重視した社会である韓国のICT産業が発達していることを考えると、韓国と同様に学歴が少なからず重視されている現代の日本もこのままの社会形態を維持し、AIを生産・使用する側の人材を育成する方向でAIと共存していく方法もあるのかもしれない。そのような社会が実現できるのか、また、それが実現した場合、よりAIが生産・発達して行くことが考えられる。もしそうなれば、国内の教育分野や就職に影響を及ぼすだけでなく、世界的に大きな変化が起こるかもしれない。それがどのようなものなのか、それが良い方向に働くのか、はたまたそうでないのか、この場合についても探究してみたいと思う。

【参考文献】

- ・新井紀子「AI vs. 教科書が読めない子供たち」
- ・プレジデント社「「AO入試はバカでラクでズルい」は時代遅れ...東北大学が「筆記だけの一般入試をやめる」と 宣言した本当の理由」(<https://president.jp/articles/-/88903>) 参照日:2024年9月4日
- ・星槎道都大学「学習指導要領の変遷」
(<https://www.seisadohto.ac.jp/20026/uploads/2023/07/6b4a14a2519a9cod2ceab580a60c5006.pdf>)
参照日:2024年9月11日
- ・朝日新聞デジタル「日本の15歳、読解力3位に上昇、科学は2位に 国際学習到達度調査」
(<https://www.asahi.com/articles/ASRD44SHSRCXUTILo2C.html>) 参照日:2024年9月4日
- ・ヒューマンアカデミー「日本と海外との教育の違いとは？世界の教育制度や特徴を徹底比較！」
(<https://haa.athuman.com/media/japanese/world/2891/>) 参照日:2024年9月11日
- ・「学習指導要領等の改訂の経過」
(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/idea/_icsFiles/afieldfile/2011/03/30/1304372_001.pdf)
参照日:2024年9月11日
- ・国立教育政策研究所「読解力の向上に向けた対応策について」
(https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2015/05_counter.pdf) 参照日:2024年9月4日
- ・AIsmiley「AIを教育現場に導入するメリット・デメリットとは？活用事例を紹介」
(https://aismiley.co.jp/ai_news/what-are-the-advantages-and-disadvantages-of-ai-for-education/)
参照日:2024年9月4日
- ・Kei-net河合塾「拡大する学校推薦型選抜と総合型選抜」
(<https://www.keinet.ne.jp/exam/basic/structure/recommend.html>) 参照日:2024年9月11日
- ・文部科学省「学習指導要領の変遷」
(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/_icsFiles/afieldfile/2011/04/14/1303377_1_1.pdf) 参照日:2024年9月11日

高校時代における性格は幼少期(3～12歳)の影響を受けているのか

教育・保育2班

【要旨】

私達は、現在の性格は幼少期の環境が影響しているのではないかと気になったためこの問いを立てた。仮説として、幼少期の環境、習い事、きょうだい構成が現在の性格に影響していると立てた。結果として、きょうだい構成との関連性については私たちの研究では見られなかったが、幼少期の習い事や環境が現在の性格に影響していることが分かった。

1 はじめに

高校時代における性格は幼少期の影響を受けているのかについて研究した。今の私達の性格は小さい頃の影響を受けているのか気になったから。

2 研究の目的

自分達が大人になってから子供達に合った性格になるためのアドバイスを伝えること、どのような環境を作っていくかなど自分の将来に役立たせることができる。

3 仮説

幼少期の環境、習い事、きょうだい構成などが今の私達の性格や人生の選択の幅に影響していると仮説を立てた。環境は幼少期していた遊び、習い事はスポーツかそれ以外のものか、団体競技か個人競技か、きょうだい構成はきょうだいの人数や自分が兄・姉の立場であるか、弟・妹の立場であるかが影響していると考えた。

4 研究方法

①好文館高校の高校1年生から高校2年生の生徒にアンケートを実施。207件の回答があった。

<質問項目>

- 1.幼少期どんな子どもだったか
 - 外向的(人と関わるのが楽しい)
 - 内向的(人と関わるのが難しい)
- 2.幼少期はどんな遊びをして過ごすことが多かったか
 - 外遊び(おにごっこ、遊具など)
 - 室内遊び(お絵描き、本を読むなど)
- 3.きょうだい構成(選択肢あり)
- 4.1人っ子以外の回答をした人は自分がどの立場に該当するか(選択肢あり)
- 5.幼少期からの習い事はなにか(選択肢あり)
- 6.中学の部活(クラブチーム)は何に所属していたか(選択肢あり)
- 7.MBTIはなにか(選択肢あり)
- 8.自分から見て今の性格を表すとなにか
 - 外向的(人と関わるのが楽しい)
 - 内向的(人と関わるのが難しい)

②ジェームズ・J.ヘックマン『幼児教育の経済学』

5 研究結果

結論から言うと影響を受けているという結果になった。ジェームズ・J.ヘックマンの『幼児教育の経済学』という著書によると、私達には認知能力と非認知能力という2つの能力があることが分かった。表1から分かるように、認知能力は主に計算力や記憶力などの学力的な面、非認知能力は思いやりや協調性などの性格的な面を指す。ヘックマンの著書によると、認知能力は11歳頃までに基盤が固まることが分かった。このことから、今の私達の認知能力は幼少期の環境が影響している、と判断できる。また、性格面を指す非認知能力は20代半ばまで変化する可能性があるということが分かった。これは、周りの環境や関わる人によって性格は変化していくことを表している。しかし、幼少期に集団で遊ぶことが多かった人、自分の意志で物事を進めさせることを意識して育てられてきた子は、そこで培われた人間関係における知識や技術が成長しても継続されていくという研究結果が得られた。このことから、高校時代における性格は幼少期の影響を受けていると言える。

表1 認知能力・非認知能力の比較

認知能力 【学力的な面】	非認知能力 【性格的な面】
・記憶力 ・計算力 ・思考力 ・言語力 など	・社会的スキル(人間関係における知識や技術) ・思いやりの力 ・意欲 ・忍耐力 ・他者と協働する力 など
幼少期に家族や友達と沢山話していた子や「今日学校楽しかった?」「どうすれば仲直りできるかな?」などと過去や未来を振り返り想像させることで認知能力が発達する	読み聞かせやごっこ遊び、積み木、集団で行う遊びなど子どもの自発性を大事にするような活動をしてきた子は、社会的スキルがアップし、非認知能力が発達する。

6 考察

研究結果から幼少期の環境や人間関係などを通して、様々な経験をすることで認知能力や非認知能力が培われる。それが現在の私達の性格や学力の基盤となっていることが分かった。また、そういった能力が発達することで想像力が豊かになり人生の選択肢も広がる。したがって幼少期の環境や習い事が今の私達の性格や人生の選択肢に影響しているという仮説は正しいと言える。一方で、仮設で立てたきょうだい構成と現在の私達の性格の関連性は100%ないと判断することは難しい。最後に10年後、20年後と大人になってからも性格は変わり続けるのかという疑問が生まれた。

7 おわりに

この研究を通して、仮説立ての重要性を学んだ。仮説を明確に立てることで、研究すべき項目を絞り込むことができ、研究結果や考察をより端的にまとめることができた。よって認知能力や非認知能力の影響により幼少期の性格が変化し現在の性格に結びつくことが分かった。

【参考文献】

(図書)

(1)ジェームズ・J.ヘックマン 『幼児教育の経済学』東洋経済新報社, 2015年 6月19日

(ウェブサイト)

(2)ヒューマンアカデミーこども教育総合研究所

<https://kids.athuman.com/cecoe/articles/000193/> 参照日 : 2025年 1月13日

「日本の教育の変化で学生の学力、勉強への意欲は向上したのか」

教育・保育3班

【要旨】

私は「日本の教育の変化で学生の学力、勉強への意欲は向上したのか」という問いを立て研究を進めてきた。近年、学習指導要領が変更され学校の授業も徐々に変化してきた。私は今回、数学の授業に絞って教育、授業の変化で学力、勉強への意欲はどう変化したかを研究した。

1 はじめに

近年、学習指導要領が改正され、授業や生徒の学び方に変化が出てきた。授業の方針が板書中心からグループワーク、ペアワークを重視するようになった。好文館高校の3年次の数学は、1年次の授業は板書中心、2年次の授業はグループワーク、ペアワーク中心となった。私は3年次の数学の授業に研究対象を絞り研究を進めてきた。

2 研究の目的

この研究の目的は日本の教育の変化、今回は好文館高校の数学の授業の変化が生徒にとってよい影響を与えたのか、生徒はこの変化をどう感じているのかを知り、生徒の学力、勉強への意欲の向上には何が必要かを考える。

3 仮説

・学力...文部科学省が学生の学力向上のために学習指導要領を改正した
→向上している
・勉強の意欲...学習しなければならない量が増えている(教科書が大きくなったり、ページ数が増える)
→向上していない

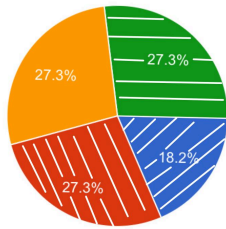
4 研究方法

①インターネットで先行研究を調べる
②インターネットで学習指導要領の変更点を調べる
③教育の変化によって1.学力、2.勉強への意欲が向上したかを好文館高校の2年次(令和6度)にアンケートをとる

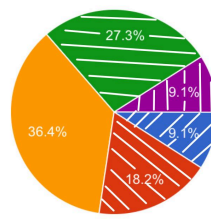
5 研究結果

①先行研究...なし
②学習指導要領の変更点...改訂の基本方針に『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進』とあり、授業がグループワーク、ペアワーク中心となつたのはこの基本方針に則っての変化だと言える
③アンケート結果

1.学力が向上したか
...約50%が「向上した」「やや向上した」、約30%が「やや低下した」と回答(33人中)[グラフ1]
2.勉強への意欲が向上したか
...約30%が「向上した」「やや向上した」、約40%が「低下した」「やや低下した」と回答(33人中)[グラフ2]



[グラフ1]



[グラフ2]

6 考察

- ・1年次と2年次では学ぶ内容が異なる(1年次は二次関数、場合の数等、2年次は微積分、数学的帰納法等)。よって、研究結果③が教育の変化の影響のみで現れた結果とは言いきれない。
- ・学力、勉強への意欲はともに仮説通りではあったが大きな偏りは見られなかったため、もっと多くの生徒の回答が得られれば学力、勉強への意欲それぞれが向上したか、向上していないのかがはっきりとわかるかもしれない。
- ・数学は苦手意識を持つ人が多いため、数学以外の教科で研究していたらアンケートは違った結果になっていたかもしれない

7 おわりに

この研究を通して、数学の授業に対し好文生はどう考えているかが分かり、数学の授業の変化はどんな影響を与えるのかを知ることができた。学校は、これからの社会で必要である主体性や協調性といったものを養うことができる環境になり、生きる力が身につくようになっていくことが考えられる。今回の研究で行ったアンケートは回答数が非常に少なかった。今後の研究ではより多くの人にアンケートの回答を回答してもらい、より正確なデータを集めたい。私はこの研究を進めて、他教科や他学年、他の学校などで似たような研究を行うとどのような結果が得られるのか、という疑問が生じた。おそらく他の学校はもちろん他教科や他学年も、今回研究した好文館高校2年次とはまた異なる授業方針、授業方法のため、この研究と同じ結果は得られないだろう。この研究をより広げ将来の役に立つような研究にしたい。

【参考文献】

文部科学省 「平成29・30・31年改訂学習指導要領(本文、解説)」

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編 文部科学省』

https://www.mext.go.jp/content/20250213-mxt_kyoiku01-100002620_1.pdf 参照日:2024年12月10日

乳幼児期・児童期(0歳から12歳)の頃スポーツをやっていて身についた力は現在の運動神経に関係があるのか？

教育・保育4班

【要旨】

乳幼児期・児童期にスポーツなどをして、身についた力が現在の運動神経に関係があるのか興味を持ち、ネットやアンケートで関係があるか調べた。私たちは関係があると仮説を立てたが、結果としては習い事の有無は運動神経にあまり関係はないことがわかった。また、乳幼児期・児童期にスポーツをすることが運動神経に関係していることがわかった。

1 はじめに

私たちは、運動神経と乳幼児期・児童期の運動の関係について気になり、乳幼児期・児童期の頃スポーツをやっていて身についた力は現在の運動神経に関係があるのかというテーマをたてた。乳幼児期・児童期はここでは0歳から12歳と定義しており、運動神経が良いとは、一つの運動に特化しているというよりは、様々な運動が満遍なくできるというイメージで探究している。

2 研究の目的

乳幼児期・児童期にスポーツなどをして、身についた力が現在の運動神経に関係があるのか知ること。また、どんな運動がより乳幼児、児童にとって有効なのか知ること。

3 仮説

友人が乳幼児期・児童期にスポーツをしており現在運動神経が良いため、乳幼児期・児童期にスポーツをやっていて身についた力は現在の運動神経に関係がある。

4 研究方法

インターネットでオリンピック選手の経歴などを調べる、好文館の同級生にアンケートを取り探究する。アンケートの内容は、乳幼児期・児童期に習い事でスポーツをしていたか。している人には何を習っていたか。スポーツテストの結果はA.B.C評価のうちどれでしたか。という3つの質問である。

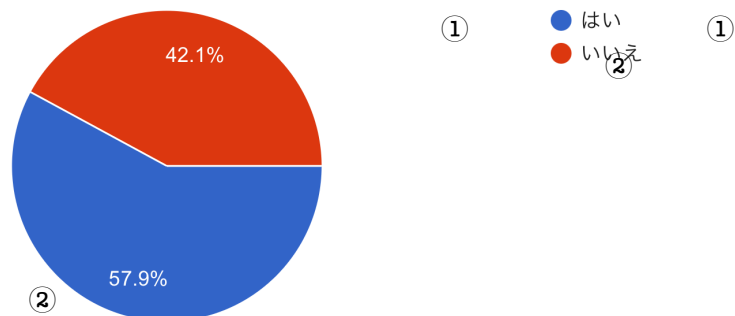
5 研究結果

アンケートを通して分かったこと

- ・乳幼児期・児童期にスポーツを習っていたと答えた人が全体の57.9パーセントと半数以上。
- ・現在のスポーツテストの結果はBが42.1%と多く、AとCはA26.3%、C31.6%と大半同じくらいの割合。
- ・幼少期にスポーツを習っていてスポーツテストの判定がAだった人とCだった人の割合が同じ。

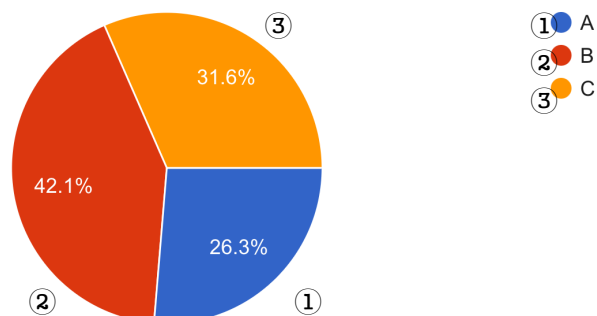
幼少期(1～7歳)に習い事をしていましたか

19 件の回答



スポーツテストの結果を教えてください。

19 件の回答



また、日本で活躍しているスポーツ選手は幼少期にどんな運動をしていたのかについても調べた。陸上競技、やり投げの北口榛花選手は小さい頃からサッカー、野球、テニス、水泳、バドミントン、バスケなどの多くのスポーツをしてきた。体操競技の橋本大輝選手は6歳から体操を初め、岡慎之助選手、萱和磨選手は小学2年生から体操を始めた。柔道競技、阿部一二三選手は6歳から柔道を始め、阿部詩選手は水泳、ピアノ、5歳から柔道を始めた。

これらの情報から習い事と運動神経はあまり関係ない事がわかったが、乳幼児期・児童期に運動をする事が運動神経に関係すると考え、幼少期にどんな運動をするとより効果的なのか調べた。9歳から12歳はゴールデンエイジと呼ばれる運動能力が急速に向上する時期で、その時期

に、1日60分以上の運動をすると良いと言われている。具体的には投げる、走る、リズムに乗る、体操、ストレッチなど、幼少期には様々な基本的な運動を行うことで、運動能力が養われる。幼少期に楽しんで運動をすることで、運動神経だけでなく社交性や心の発達にもつながる事がわかった。

6 考察

アンケートより、乳幼児期・児童期にスポーツを習っていても現在のスポーツテストの結果がAの人もCの人も同じ人数だった事から、習い事の有無と運動神経にあまり関係がない事がわかった。習い事は数人の講師に対して大勢の生徒で行われる場合が多いため、1人が使う運動時間があまり多くなく現在の運動神経とあまり関係が無いのではないかと考えた。また、オリンピック選手の経歴や調べた結果から習い事に関わらず、乳幼児期・児童期にスポーツをしている事が運動神経に関係すると分かった。調べた結果から、子供の運動神経を高めるには、大人や子ども同士での積極的な遊びが大切だと考えた。遊び相手や遊び場が減っているため、少子化問題や土地開発での遊び場の減少をくいとめる必要がある。

7 おわりに

今回の研究を通して、乳幼児期・児童期にスポーツなどを行うことで身についた力は現在の運動神経に関係があるとわかった。しかし習い事をしているかどうかはあまり関係ないのではないかと考えた。

【参考文献】

- ・【世界陸上2023】やり投・北口榛花の幼少期からのプロフィールや経歴

<https://saitama-international-marathon.jp/athlete/%E3%80%90%E4%B8%96%E7%95%8C%E9%99%B8%E4%B8%8A-2023%E3%80%91%E3%82%84%E3%82%8A%E6%8A%95%E3%83%BB%E5%8C%97%E5%8F%A3%E6%A6%9B%E8%8A%B1%E3%81%AE%E5%B9%BC%E5%B0%91%E6%9C%9F%E3%81%8B%E3%82%89%E3%81%AE/> 2024 12.10

- ・橋本大輝の生い立ち！幼少期にテレビの解説を覚えるほど体操に夢中だった天才児！

<https://miioida413jf.com/hashimotodaiki-oitachi/> 2024 12.10

- ・阿部詩の幼少期からの生い立ちや経歴！家族構成・両親の情報も

https://saitama-international-marathon.jp/athlete/abe-hifumi-keireki/#index_id1 2024 12.10

- ・阿部一二三の幼少期からの生い立ちや経歴！家族構成・両親の情報も

<https://saitama-international-marathon.jp/athlete/abe-uta-keireki/> 2024 12.10

勉強方法・成績と学力の関係性

教育・保育5班

【要旨】

私たちは「成績」と「学力」は「勉強方法」によってどう変わるのかが気になり、私たちはアンケートや本での調査、インターネットなどを用いて調べることにした。アンケートでは勉強方法は何か、定期考査の平均点はどの程度か、勉強方法を変えて点数は上がったかの3点に絞り調査を行い、本は学校の図書室にあった本を借りた。結果として勉強方法を変えたからと言って成績と学力への影響はすぐには現れないということが分かった。

1 はじめに

勉強によって得られるもの、得られないものがある。また、成績は具体的に出されるの点数であり、学力は成績を踏まえての応用力である。この成績と学力は勉強の仕方と身に付き方に違いがあるのだろうか。

2 研究の目的

勉強方法の違いによって「成績と学力」はどのように違うのか。
→もし勉強方法によって成績と学力に上下があるのならどのような勉強方法が良いか。

3 仮説

勉強方法の違いは「成績と学力」の違いである→一人一人の勉強方法が違えば成績と学力にも大きく影響がでる

4 研究方法

図書室の本、アンケート、インターネット、大学の教授のお話、教育番組の視聴、youtube

5 研究結果

アンケートの結果からわかること

- ・ほとんどの人がワークでの取り組み・平均点は40~80がほとんどである。
- ・ワークに取り組んだことにより、しっかり知識は身につけている。
- ・知識など暗記、記憶力が問われる問題を多く解けていた。→数学などの答えが変化する応用力が必要な科目が苦手だった。

◎他の国との勉強方法の違い

- ・世界と日本では大きな違いがある(例)フィンランド
→年に一度しかテストがない、科目は自由など

6 考察

知識とは成績、応用力とは学力である。

勉強方法による「成績と学力」の違い(勉強方法による成績の上下)は見られなかったことから、人それぞれの活動への取り組み方・意欲・勉強時間の違いが関わっている。

7 おわりに

やはり楽に成績と学力を上げることは簡単ではないということがわかった。勉強方法を変えたところで即効性があるということでもない。一人一人の努力次第である。

【参考文献】

インターネット...

[https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCB237TIoT2oC24A7000000/#:~:text=世界中でIQ\(知能,99.62を大きく上回った%E3%80%82](https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCB237TIoT2oC24A7000000/#:~:text=世界中でIQ(知能,99.62を大きく上回った%E3%80%82)

本...1.「学力」の経済学 教育経済学者 中室 牧子さん

2. 成績だけが評価じゃない 著者 教師スター・サックシュタイン

専修大学教授

youtube... 武田塾チャンネル、ブレイクスルー佐々木、あきとんとん→4月20日視聴

教育番組...10min、ボックス 生活．公共とは

幼児の頃に見た教育番組の教育は今に繋がっているのか

教育・保育6班

【要旨】

「幼児の頃に見た教育番組の教育は今に繋がっているのか」というテーマに対して、繋がっていると仮説を立てて探究を進めた。そこで、比べる教育番組を3つに絞り、アンケートを取ったり実際に視聴したりして、ジャンルの違う番組から学べることには違いが出るのか調べた。その結果、番組ごとに学べることは異なり、今の私たちに繋がっていると考えられることが分かった。

1 はじめに

幼児の頃は何も考えずに何気なく教育番組を見ていたが、そこからの学びは高校生になった今に繋がっているのか気になったからだ。

2 研究の目的

教育番組からの学びが今に繋がっているのかを明確にし、幼児期に教育番組を観る意義があるのかどうか調べる。

3 仮説

教育番組を見ることで、音感や語彙力の向上、数の数え方などを身につけることができ、それは今の私たちに繋がっている。

4 研究方法

インターネット:どのような教育番組があるのか調べる。

アンケート:好文館生(令和6年度の2年生(16名))に、アンケートをとる。

実際に番組を視聴して、学べることを調べる。

〈定義〉

教育番組:教育を目的としたテレビ放送の番組。この研究では「おかあさんといっしょ」「それいけ！アンパンマン」「にほんごであそぼ」を取り上げる。

※「おかあさんといっしょ」は保護者とともに観る、「それいけ！アンパンマン」はアニメーション作品である、「にほんごであそぼ」は勉強に直接関係するという観点別に取り上げた。

幼児:1～6才の小学生入学前頃を指す。

5 研究結果

表 番組別「教育番組から身についた力」のアンケート結果と視聴した感想

番組名	身につく力	実際に見て感じたこと
おかあさんといっしょ	生活習慣、想像・発想力、歌唱力、語彙力	親子のコミュニケーションに繋がる
それいけ！アンパンマン	生活習慣、想像・発想力、語彙力、歌唱力	思いやりや困難に立ち向かう勇気が身につく
にほんごであそぼ	想像・発想力、語彙力	日本特有の文化に触れるきっかけとなる

上記の結果から、教育番組でもそれぞれ異なる要素があると言える。また、「それいけ！アンパンマン」は問題解決に困った時の暴力、道徳という選択肢にない他の意見もあがった。3つの

番組で共通している要素は想像・発想力である。

〈実際に視聴して感じたこと、考えたこと〉

おかあさんといっしょ

親子で一緒にやることやお手伝いが多いと感じ、親子のコミュニケーションに繋がりに一緒に考えたりすることから想像・発想力が身につくと考えた。

それいけ！アンパンマン

助けるシーンや思いやるシーンが多く見られ、思いやりや困難に立ち向かう勇気が身につく、想像・発想力の他に加え、行動力も身につくと考えた。

にほんごであそぼ

かるた、ことわざなど伝統的なその遊びをしていることから日本特有の文化に触れるきっかけになり、語彙力が身につくと考えた。

6 考察

上記の結果から、教育番組から身につく力は複数あり、番組によって異なる力が身につくことが分かる。また、異なるカテゴリーの番組を複数見ることで様々な力を身につけることができるため、より今に繋ぐことができていると考えられる。

7 おわりに

この研究を通して、幼児期に教育番組を見ることで様々な知識や能力を身につけられるということがわかった。また、別の番組(みいつけた、ピタゴラスイッチなど)だったら違う結果になっていたのかという疑問が生まれた。

反省点は、アンケートの回答件数が16件と少なかった点である。今回はGoogleアンケートで作ったアンケートを各クラスラインに流し、それぞれに回答してもらおうという形式を取ったが、プリントにして各クラスに配った方が回答率が高くなったのではないかと考えた。

【参考文献】

(ウェブサイト)

Nキッズ-NHK Eテレの子供向け番組

<https://www.nhk.jp/g/kids/> 参照日: 2024年1月10日

保育において絵本を動画に置き換えることはできるのか

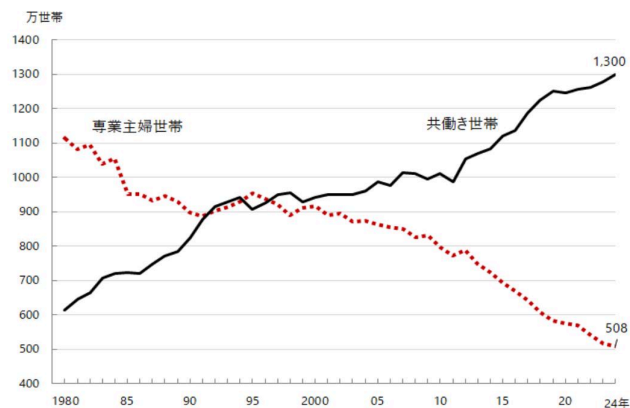
教育・保育7班

【要旨】

共働き世帯が増えていることを知り、親が大きな負担を抱えないように絵本を動画に置き換えられないかと思った。この問いに私たちは動かない絵本と、動く動画では想像力に与える影響が異なるため、置き換えられないと仮説を立てた。

実際に絵本と動画の特徴を比較しまとめたところ、動画は親と過ごす時間や話の理解に制限がかかることが分かり、絵本の役割を動画で補うことはできないため、置き換えられなかった。

図12 専業主婦世帯と共働き世帯 1980年～2024年



1 はじめ

近年共働き世代が増えていることを知り、それに伴って親子の時間も減少していると考えた。そのため、親子の時間を代表する絵本を、親がいなくても見ることができる動画に置き換えることが、子どもの成長に影響するのか考えたいと思い、私たちは、「保育において絵本を動画に置き換えることはできるのか」について研究をした。

2 研究の目的

親子の時間が減少していく中で、絵本・動画の特徴を知ってもらい、親が子どもに動画と絵本のどちらを見せるのかを考えるきっかけをもってもらおうこと。

3 仮説

絵本の絵は動かないため、子ども自身でストーリーに合わせた動きをイメージする。これは子どもが頭の中で、人物の動きや心情を想像する力に結びつくと思うため、絵本を動画に置き換えることはできないと考えた。

4 研究方法

まず、動画の定義を絵本としても存在する童話とする。例) 日本昔話・グリム童話

※人が映るYouTubeではない

- ・絵本が与える想像力についての論文を読み、絵本が子どもに与える影響を調べる。
- ・絵本と動画のメリットをインターネットで調べ、絵本のメリットが動画のメリットにもあるのか比較する。
- ・絵本・動画を見る子どもの様子を、職場体験の際に保育所(新田保育所)で読み聞かせをした時や子どもがDVDを見ていたときの様子をまとめ、実際の子どもの様子にどのような違いがあるか調べる。また、インターネットで読み聞かせをしているときの子どもの様子を調べ、より多くのデータをとる。

5 研究結果

○想像力についての論文

(山木道子1990 引用)

「幼稚園年長児に1年間最低1日1冊読み聞かせを行うと、毎日読み聞かせをしなかった子どもに比べて、※作話テストにおいて優れた成績が得られたという研究結果が出た。このことから絵本を通して豊かな想像力や表現力を身につけていると考えられる。」

※作話テストとは文のない絵だけの本をその場で見せて、作話させるもの。

○絵本と動画の比較

『絵本』メリット:

- ・絵を十分見て人物の心情や次の展開を考えたり、字を見てその言葉の読み方や意味を考えたりしてからページをめくることができるように、子どものペースで読めるため、想像力が育まれるだけでなく、言葉の理解につながる。
- ・絵本を読むことは、親子で同じ空間を共有するとともに、子どもの隣で読んだり、膝の上に座らせたりと親子が密接に関わる時間となる。
- ・話し手によって声や読み方が違うため、同じ本でも緩急、声色、読むスピードなどに変化が付き、何度もその本を楽しめる。さらに、読む度に新たな発見がある。

『動画』メリット:

- ・親がいなくても子ども1人で見ることができる
- ・人物の表情や動きが細かく分かる
- ・色彩に富んでいる
- ・絵本に比べてお金がかからない
- ・電子機器一つでたくさんのものが見れるので保管に場所を取らない

○子どもの様子の観察

【絵本を読む子ども】→反応が多い

(例) [実際の観察から]

- ・絵を見つめ、指差す
 - ・言葉を真似する
 - ・途中で疑問を持って読んでいる人に聞いてくる
 - ・擬音語などのときに身体を動かす
 - ・近くの友達と会話を挟み賑やか
- [下のグラフから]
- ・繰り返し読んでほしいがるなど

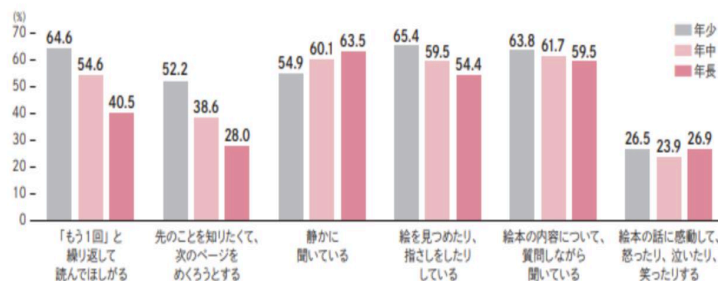
【動画を見る子ども】→反応が少ない

(例)・話し掛けに気が付かない

- ・画面に釘付け

4 読み聞かせをしているときの子どもの様子

読み聞かせを通して、子どもは保護者とのやり取りを楽しむ



※1 グラフの数値は、「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

※2 複数回答。

6 考察

○論文から

絵本を読むことで子どもは、話の構成や人物の行動・心情を読み取り、それを自分で活用できるまでに身につけていると考えられる。

○絵本・動画のメリットから

絵本は「想像力を身につける、親子の時間を作る」

動画は「経済的、親の手間が減る」というメリットがある。

→動画のメリットは子どもの成長に関係しておらず、絵本のメリットを補えていない。

○絵本と動画を見る子どもの様子の違いから

・絵本に反応が多いのは、絵本は答えてくれる相手がいて話し手の声に安心するから。

・動画に反応がないのは、相手がおらず問いかけても反応がないから。絵本は自分のペースで状況を理解しながら読めるが、動画は理解する前に状況が目まぐるしく変化するため、それに追いつこうと集中し、反応する余裕がない。

7 おわりに

考察で述べた、絵本の「子どもの想像力を育む、親子の時間を作る、言葉の理解につながる、親子のコミュニケーションをつくる」という役割は、動画には無く、「絵本を動画に置き換えることはできない」と言える。

今回の研究を通して私たちは、共働き世帯が増えているが、楽な動画に頼るのではなく、絵本を読む重要性を感じた。そこで絵本を読んでもらうために

- ・家族だけの負担にならないように地域でサポートする
 - ・移動式本屋などで絵本へ触れる機会・興味を持ってもらう
 - ・図書館をもっと利用してもらう
- ことが必要だと考えた。

また、研究の目的は絵本と動画の特徴を知ってもらい、親にどちらを選択するか考えてもらうことだ。絵本の必要性を理解してもらうために、私たちができる実践的な提案として、絵本の読み聞かせによって期待される効果を簡単にまとめたカードタイプの資料(絵本周知カード)を作成した。実践までには至っていないが、これを実際に本屋や保育施設に配布してもらうことで、手軽に絵本の読み聞かせの良さを知ってもらい、私たちの研究の目的である絵本と動画を正しく選択してもらう機会になってほしいと考える。



絵本は

感受性を刺激し想像力・表現力を豊かにする

親子のコミュニケーション

言葉と知識の学びを深める

絵本で身についたものは子どもの
好奇心に繋がります

【参考文献】

・世界一わかりやすい！ 幼児教育

https://sekayo.jp/yomikikase_merit/ 2023-04-03

(2024-11-27)

・ベネッセ教育総合研究所「幼児期の家庭教育調査」(2018)

https://benesse.jp/berd/up_images/magazine/KORE_2019_spring_data.pdf

(2024-11-27)

・コクリコラボ

<https://cocoreco.kodansha.co.jp/cocoreco/general/life/labo/TgnfN2021.07.05>

(2024-11-27)

『日本がフィンランドの教育方式を導入したら、日本の学生の学力は向上するのか』

教育・保育8班

【要旨】

フィンランドの教育水準が世界一であることから、日本の学校がフィンランドの教育方式を導入したら、日本の学生の学力は向上するのだろうかという疑問に思った。そこで、生徒が主体的となって考える授業が生徒たちの勉強に対する意欲につながり、学力が向上するという仮説を立てアンケート調査を行った。結果として、日本がフィンランドの教育方式を導入したら学力は向上するとはいえないが、生徒の思考力や自主性の向上など見習うべき点はあると考えた。

1 はじめに

この研究を行うに至った動機は、フィンランドの教育水準が世界一であるということを学校の先生から教わったことである。日本の教育とどのような差が生まれているのか疑問を感じ、フィンランド教育について調査をしてみたいという興味と関心が生まれた。また、宮城県、そして石巻市の学生の学力が年々低下している事実を受け、世界一のフィンランド教育について調査を進めることで、自分たちの学力の向上に繋がるものを何か得ることができるのではないかと希望を見出した。実際に日本でフィンランド教育を導入した際の学力の変化を想定し、良い方向に進むと判断できれば、今後の石巻市の教育の更なる発展と改善に繋げていけるのではないかと考え、この研究テーマを設定した。

まず、この研究の基礎知識として、フィンランドと日本の教育水準についてである。OECD、経済協力開発機構が、2022年に各国の教育水準を調査したデータを発表している。そのランキングによると、フィンランドは1位、日本は14位という結果になっている。

次に、この研究における"教育方式"とは、"学校における授業形態"を指すこととする。フィンランドの授業形態は、生徒の自主性を重んじたものとなっていて、主に

- ・生徒自身で課題を解決するグループワーク
- ・生徒によるプレゼンテーション
- ・実験などの実際に体験できる授業

のようなアクティブラーニングが積極的に執行されている。



←実際にグループワークを行うフィンランドの学校の様子

また、この研究において、広い意味を取ることができる『学力』という語の定義は、"テストや成績面での個人の能力"を指すこととする。

2 研究の目的

この研究の目的は、日本の学生の学力の向上に繋がる方法を学び、自分たちの身近な学習に活かしていくことで、教育や学習に対する興味・関心と学力を高めること、また、他国の教育実態を知り、社会的な教養を深めることである。

3 仮説

我々は、フィンランドの教育方式の導入によって、生徒が主体的となって自分たちで積極的に考える授業が、生徒たちの勉強に対する意欲に繋がり学力が向上する、という仮説を立てた。

4 研究方法

研究方法は、文献・インターネット調査と、好文館高校と石巻市圏内の公立中学校の1,2年の生徒(高校生178名、中学生275名、計453名)に対するアンケートである。

アンケートの質問内容は、以下の通りである。

①生徒が主体的になって授業を行う、フィンランドの学校における教育の仕方・方式についてどう思うか。(以下より選択)

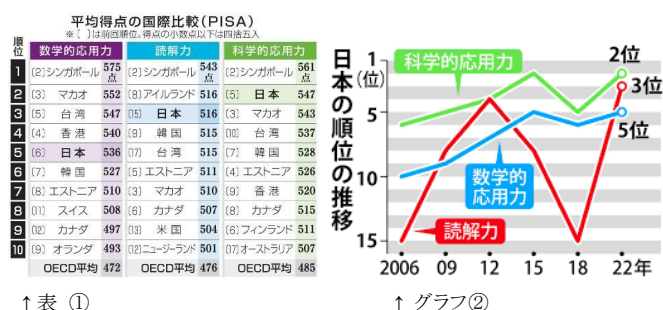
- 良いと思うので、ぜひ自分の学校に導入されて欲しい
- 良いとは思いますが、導入して欲しいとは思わない
- 良いとは思わないが、今の自分の学校には導入した方が良さそう
- 良いとは思わないし、導入して欲しいとも思わない

②フィンランドと日本の授業形態を比較した場合、どちらの方が現在の石巻市の学力の向上に繋がると思うか。

5 研究結果

フィンランドの教育方式では、思考力や表現力の向上は期待できるのに対し、基礎知識の定着は個人それぞれに委ねられることが明らかになった。現状として、まずフィンランドで深刻な基礎学力の低下が発生している。日本における中学3年生にあたる、フィンランド国内の9年生の生徒の約3分の2が、分数の計算や暗算、パーセントの計算ができないという結果が出ている。また、学習を生徒の自主性に任せることで理系離れが進み、フィンランド国内での深刻な医者不足も起こっている。隣国のエストニアから医師を招いて現状を凌いでいるようだ。

対する日本の学力についてである。下記の表①は、OECDが2022年に行った、学習到達度調査の結果をランキングで示したものである。日本は3つの観点全てで38か国中5位以内に入り、高い学力水準であることが分かる。下記のグラフ②は、同じ調査における2006年から2022年までの日本の順位の変化を示したものである。年によって若干の変動はあるものの、各観点で高い順位を維持していることが分かる。



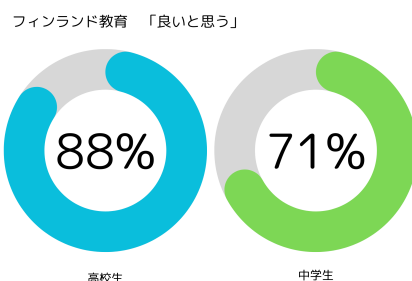
この結果から、安定した学力を維持できるのは日本の教育の良い点であり、日本の教育は劣っていないと判断することができる。

また、令和6年度の好文館高校では、2年次の数学の授業が、普通の座学スタイルから、グループワークで友達と互いに教え合うスタイルの授業に変わった。そのような授業がメインになってから、当時好文館高校2年の生徒の模試の数学の成績に変化があった。思考力を問う問題では、学習の到達度を示す評価であるGTZがCからBへ1ランク上がり、正解率も7.4から12.1へ増加した。それに対して、知識力を問う問題では、正解率が28.9から12.8へ減少した。

フィンランドのような授業形態では、生徒の思考力の向上は期待できるが、基礎的な知識力は個人に委ねられ、定着が不安定になるということが明らかになった。

次に、行ったアンケート調査の結果についてである。

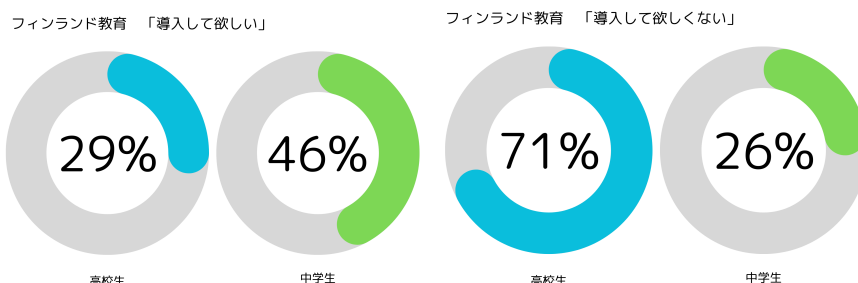
フィンランド教育について、良いと思うと答えた生徒の割合は、高校生が88%、中学生が71%であった。回答した理由には、「先生に教えられるより友達の考えの方がわかりやすく、理解しやすいから。」という意見などが挙げられた。



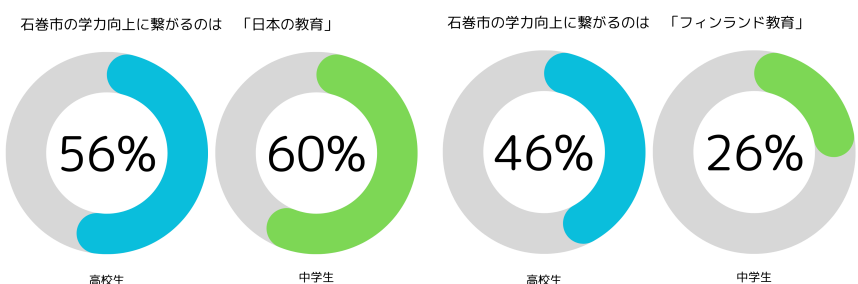
一方、フィンランド教育を導入して欲しいと答えた生徒の割合は、高校生が29%、中学生が46%であり、良いと思うと答えた生徒に比べると割合が下がった。

対する導入して欲しくないと思った生徒の割合は、高校生が71%、中学生が26%だった。回答した理由には、「先生方

に教えてもらうからこそわかることもあると思ったから」「やる気の差で他と大きな格差が開いてしまうから」などが挙げられた。



また、より石巻市の学力の向上に繋がると思うのは、日本の教育であると答えた生徒の割合は、高校生が54%、中学生が60%で、フィンランド教育であると答えた生徒の割合は、高校生が46%、中学生が26%であった。



日本の教育の方が学力の向上に繋がるという意見を持つ生徒の方が多くなることが明らかになった。

6 考察

フィンランド教育が生徒たちの学習の意欲に繋がっているならば、知識能力の低下は起こっていないはずである。また、フィンランド教育を良いと答えた生徒は、中学生・高校生ともに多くいたものの、導入して欲しくないと答えた生徒や、日本の教育の方が学力向上に繋がると答えた生徒も一定数いたことから、フィンランド教育の学生からの支持と期待は高いとは言えないことがわかった。したがって、フィンランド教育は、生徒たちの勉強に対する意欲に繋がるとは言えないと考える。

日本の教育とフィンランド教育の互いのメリット・デメリットをまとめると、日本の教育は、安定的な学力の定着が図れるのに対し、先生主体の授業によって生徒が自然と受け身になるため、自主性や自己発信力が養われにくくなる点や、授業の準備、生徒全体に教える労力など教員の負担も大きくなってしまふ欠点がある。対するフィンランド教育のメリットとして、生徒自身の思考力の向上と、授業準備などの教員の負担軽減が期待できる点がある一方で、苦手分野の克服が難しいため理系・文系の比率が大きく偏ってしまうことや、基礎学力の定着が不安定になることで、生活に必要な知識すらも理解できなくなってしまうというデメリットがあった。

生徒主体の授業が生徒自身の勉強の意欲に繋がるとは言えないこと、日本と対照的な授業形態が優れた教育とされているものの、基礎知識の低下を引き起こすデメリットも多くあることから、日本がフィンランドの教育方式を導入したら、学力は「向上するとはいえない」ということが分かった。

ただし、現在の日本がフィンランド教育を見習うべき点はあると考える。少子高齢化が進んでいることで、先端技術の発展や人工知能が広く普及している現在、“知識をただ覚える力”よりも、“その知識をどう活用するか”という力も私たちに求められている。基礎知識の安定した習得が得られる現在の教育と、その基礎知識を応用的に活用した問題に生徒たち自身で取り組む生徒主体の教育を、互いに両立していく必要があると考える。

7 おわりに

調べ進める中で、フィンランドと日本の教育制度はそれぞれの社会や環境、人々に適した教育であると感じた。現在の日本の具体的な学校の授業に置き換えると、体育や音楽などの実技的な科目では、現時点よりも更に生徒ら自身の自主性を尊重し、実践的能力や課題解決力を伸ばしていく体制を整えていく必要があると考える。iPadなどのIT機器を利用しながら、生徒それぞれが自身の課題を見つけたり、種目に対する興味関心を深めることで、より豊かな人間性や社

会的な適応力が身につけられていくのではないだろうか。

対する、国語や数学等の主要教科では、全面的に現在の教育体制を変更することはせず、教師による基礎学力の教授を根幹としながら、生徒ら自身がその得た知識を活用する機会も定期的に取り入れる必要があると考える。例えば、週に一度その週の学習内容を振り返るためのグループワークを取り入れ、グループで一つの難しい課題を解決するために議論と思考を練る時間を設けることで、生徒自身の主体性の向上も期待でき、基礎知識と応用力の定着の両立が図れるのではないだろうか。

このように、日本の教育制度の協調性、広い分野での知識の習得を大切にする教育を継続しつつ、フィンランドの、生徒の自主性を重んじる姿勢を参考にしながら授業を形成できていけると、学力の向上に繋がっていくのではないかと考える。

【参考文献】

フィンランド国立教育研究所『フィンランドの教育』(2024/10/16 引用)

https://www.oph.fi/sites/default/files/documents/151277_education_in_finland_japanese_2013.pdf

白川 司『「フィンランド式教育」は日本に必要なか？ 本国は数学力低下の深刻な事態』(2024/10/23 引用)

<https://diamond.jp/articles/amp/303362>

産経新聞『国際学力調査、日本は読解力3位に改善 数学・科学も高水準「世界トップレベル」』(2024/10/23 引用)

<https://www.sankei.com/article/20231205-IL32WISALRLRFPNDONP6EFAJMI/>

「パッシブラーニングよりもアクティブラーニングの方が授業で得られる学力が高くなるのか」

教育・保育9班

【要旨】

好文館高校では生徒の発言が少なく発言を増やすことを目的として、生徒が教師の話を聞くパッシブラーニングよりも生徒が主体となるアクティブラーニングの方が良いと考えた。調べた結果パッシブラーニングとアクティブラーニングの双方を行う方が良いと分かった。

1 はじめに

近年グローバル化や科学技術等の急速な進展を背景に、これからの社会を見通すことが難しくなっている。その中で、自分で考え、判断し、行動していく必要がある。平成30年度に告示された高等学校学習指導要領では、生きる力の3つの要素として、知識・技能に加えて、未知の状況に対応できる思考力、判断力、表現力、学んだことを社会に活かそうとする力が必要とされている。現在、好文館高校の授業のほとんどが生徒が教師の話を聞いて行う受動的な授業(パッシブラーニング)である。しかし、パッシブラーニングでは、授業が活発化されず、思考力、判断力等が授業内で身につかないと感じた。そこで、生徒自身がグループワークや議論などに積極的に参加する能動的な授業(アクティブラーニング)を行うことで発言が多くなり、授業が活発となり、お互いの思考能力を向上させることができると考えた。

2 研究の目的

アクティブラーニングを定着させ発言を増やし、それに伴う生徒の学力の向上。

3 仮説

アクティブラーニングを行うことによってパッシブラーニングと比較して、生徒が積極的に授業に参加できるようになり、知識の定着に加えて、思考能力が身につく。

4 研究方法

①インターネットや書籍での先行研究調査 ②生徒に発言に関するアンケートの実施

5 研究結果

まずアクティブラーニングとパッシブラーニングの2つを比較した時に以下のことが分かった。

双方のメリットとしてアクティブラーニングのメリットとなる点は自分の考えを整理し、他の人の意見を聞き、論理的に思考する能力を養うことが可能であることに加え、知識に対する深い理解を促進できる点、他者との意見の交換を通してコミュニケーション能力、学習意欲の向上することができる点である。パッシブラーニングのメリットは、知識のある教師が授業を行うため、大量の情報や新しい知識の定着に適している点である。

授業の際の主体者に注目すると、アクティブラーニングの場合は生徒同士の意見の交換が中心になるため生徒が主体となり、パッシブラーニングの場合は教師が一方向的に情報を伝え、生徒がそれを受け取る学習方法であるため教師が主体となっている。

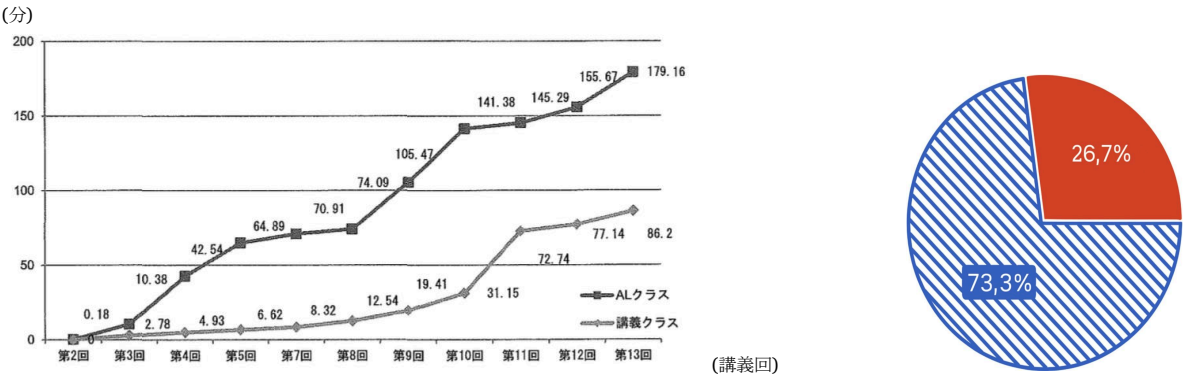
記憶の特徴として、アクティブラーニングの場合、生徒同士での意見交換が主に行われるため新しい情報の記憶には向かないが、意見交換を通じて一度覚えた情報を長期にわたり記憶できるという特徴を持っており、パッシブラーニングの場合は教師が大量の情報を効率的伝えられることが可能であるがそれで得た情報は保持率が低いという特徴があることが分かった。デメリットは、アクティブラーニングでは得られる新しい知識が少ない、授業時間の増加、生徒の評価が難しい、筆記試験を行う日本の受験との相性の悪さなどが挙げられる。パッシブラーニングのデメリットは主体的な学習習慣が身につかないことや理解度や定着率の低さなどが挙げられる。

上記の内容をまとめた表

	アクティブ	パッシブ
メリット	論理的思考と深い理解を促進	基礎知識を習得するのに有用

記憶力の特徴	定着が長い、得られる知識が少ない	定着の期間が短いが多く知識を得られる
デメリット	ペーパーテストで得点を得るには非効率	消極的になりやすく、自発的な学習活動を抑制してしまう

左下のグラフは小樽商科大学の心理学の授業での講義クラスとアクティブラーニングの自主的な学習時間の差を示したものであり、2つの授業方法を方法を比べたとき自主的な学習時間は最初はそこまで差がないものの、第13回で比較をすると、アクティブラーニングは179分、講義クラスは86分と約2倍ほどの差ができています。このことからアクティブラーニングのほうが主体性が上がり、自ら進んで学習に取り組むようになることが分かる。



(左図)「アクティブラーニングの学習効果に関する検証」から引用
 (右図)斜線部は発言が重要だと考えている人の割合。重要でないと考えている人の割合

好文館高校の全ての学年の生徒172人に授業中の発言に関するアンケート行った。
 右上の円グラフから、授業中の発言に関しておよそ7割の人が発言が重要だと考えていることが分かる。また、「授業中どのようなことを行えば発言は増えるか」と質問を好文館高校の生徒に実施したところ、生徒の回答で多かったものは 教師が指名する、グループワークの2つであった。このことから発言を増やすためには、教師が指名する、グループワークを取り入れたアクティブラーニングの授業を実施することが良いと分かった。

6 考察

・アクティブラーニングの方が記憶に残る授業がしやすいが、グループワークでのトラブルや得られる知識の量が少ない
 ・基礎知識を身につけるならパッシブラーニングの方が良いが、定着が短く自発的な授業を 抑制してしまう
 このことからアクティブラーニングとパッシブラーニングにはお互いのデメリットを補う相補性があり、一方を行うよりも双方を行うことによって学力が上がると思った。

7 おわりに

今回の研究でアクティブラーニングとパッシブラーニングには相補性があることが分かり、授業内で双方を行うことが良いと考えた。しかし、考察したことを実際に行うことができず、考察を深めることができなかった。また、教科ごとに効果の違いがあるかも含めて考えていきたい。

【参考文献】

杉山 成・辻 義人「アクティブラーニングの学習効果に関する検証」小樽商科大学人文研究
 2014年 3月17日
<https://barrel.repo.nii.ac.jp>
 文部科学省 アクティブラーニングに関する議論 参照日 2025年4月 28日
<https://x.gd/bitCq>
 文部科学省 高等学校学習指導要領(平成 30年告示)解説 参照日 2025年5月 14日
<https://x.gd/cPOSY>

教育方針の変化は、教員の負担増加に繋がっているのか

教育・保育10班

【要旨】

新入教員の5%が1年以内に離職している現在、若手教員が働きやすく、離職率が減少し、安心のできる職場環境にしたいという目的でインターネットやアンケートを活用し研究し、その結果教員の負担増加にはつながっていなかった。

1 はじめに

今の教員の実態について考えたことはあるだろうか。
耳にするのは「教職はブラックだ。」などマイナスな印象ではないか。
我々は将来教員志望であるために、本当に教職はブラックであるのかという疑問が生まれた。
もし、本当に教職がブラックなのであれば、何が原因でどう改善できるかを考えた。

2 研究の目的

将来教員を考える人たちが、過ごしやすく、離職の割合が減るような、安心して働ける環境を整えたいと考えたためである。

3 仮説

教育方針の変化によって教員の負担が大幅に増えたのではないかと。

4 研究方法

- ① 文部科学省の教育方針をインターネットで調べる。
- ② 好文館の職員に教育方針についてのアンケートに解答してもらう。

5 研究

- ① 2020年度、文部科学省が教育方針について変更を示した。

変化は主に「学校教育が変わる」「大学入試が変わる」という二つの内容だった。
一つ目の学校教育が変わるということは新学習指導要領に変わるということである。
これまでは「学んだことをきちんと理解しているか(知識・技能)」の評価が大きなウェイトを占めていたが、これからは知識や技能を習得するだけでなく、それをもとに「自分で考え、表現し、判断し、実際の社会で役立てる」ことが求められている。よって、未来を生きる子どもたちに「どのような力(資質・技能)を身につけるか」「何ができるようになるのか」まで踏み込んで求める教育に変化した。

資質・技能を身につけるために「どのように学ぶのか」について。それは「主体的、対話的で深い学び」を取り入れた授業が実践されるということである。言い換えると教員による一方通行の授業から、生徒自身が主体的に・能動的に参加する授業、学習に変わったということになる。

資質・技能を身につけるために「何を学ぶ」のか。それは教科・科目の構成や目標・内容が新しくなるということである。

二つ目の大学入試が変わるということは「大学入試共通テスト」が導入され「個別大学試験における多面的総合評価」に変わった。

センター試験に代わり「大学入学共通テスト」が導入された。思考力・判断力・表現力も問われるようになる。大学の個別学力試験も、多面的・総合的な評価が重視されるようになる。個別試験や私立大学試験については整理・大別され、多面的な能力や適性を評価する試験に変わった。

- ② アンケート結果から 「教育方針変更によってさらに教職はブラックになったと感じますか。」について様々な回答が得られたため、教育方針変更によりブラックになったとは断言できないが、教員は「生徒に勉強を教える」に加えて新しく「主体的、対話的で深い学び」を取り入れた授業を行わなければならない。よって、短い時間内に生徒に知識を入れなければならないのに対し、授業はグループワーク、体験学習など主体的かつ対話的な授業を行わなければならない。ただでさえ、仕事量の多い教員はプラスして教育方針の変化を踏まえた授業の準備に追われることだと思う。だが、授業の仕方について考えるのは教員の本分なので負担だと感じないという回答もみられた。

また、今の教育についてどう思うかアンケートをとったところ、「やるが多すぎる」「教員に求められる

ものが多すぎる」という意見が多くあった。

6 考察

アンケートの結果より教育方針の変化によって教員の負担が増えたかは人それぞれであった。そのため、教育方針の変更によって、どの程度の負担が増えたか測ることが出来なかった。また、教育方針の変更により教職はブラックだと感じるかアンケートをとったが、アンケートの対象が教職を継続している人であり、教職に対し、良い印象を持っている人が多かった。しかし、新人教員の約5%が1年以内に離職しているデータもあるため、離職している人にも焦点を向けたアンケートを取る必要がある。

離職している人に焦点を向けたアンケートの結果を元に、本来の研究テーマである「教職はブラックであるのか」について深掘りしていく必要がある。

7 おわりに

教員の負担は人それぞれであるが、負担に思う人もなぜ教職を継続するのか、それは、負担以上の教員という職に魅力があるからである。その魅力についてさらに深掘りしていき、教員についてさらに良い印象を広げていく必要がある。

【参考文献】

<https://www.benesse.co.jp/kyouikukaikaku/images/common/education.pdf>

(ベネッセグループ:教育の変化) 2024.12.15

<https://www.yomiuri.co.jp/national/20240424-OYT1T50229/>

(読売新聞オンライン:新人教員の4・9%が1年以内に離職...3年連続の増加に都教委「安心して働ける環境整えたい」) 2024.4.25

「幼児(3～6歳)の室内遊びと外遊びで身につく力に違いはあるのか」

教育・保育11班

【要旨】

私たちは、「幼児(3～6歳)の室内遊びと外遊びで身につく力に違いはあるのか」という問いで探究を行い、遊び方や遊ぶ場所の広さという観点で違いがあるので身につく力にも違いがある、という仮説を立てた。

結果は、外遊びも室内遊びも、遊ぶことでどんな発見をするか、友達や先生との会話や活動などからどういう影響を受けるかで、さまざまな力が身につくので、違いはない、となった。

1 はじめに

テーマを設定した理由は、走ったり、遊具で遊んだりなど元気に体を動かす外遊びと、外遊びと比べたら比較的落ち着いていて細かい動作の多い室内遊びとで、幼児に身につく力に違いがあるのではないかと思い、興味を持ったから。

2 研究の目的

幼児期に経験する室内遊びと外遊びとで、身につく力に違いがあるのか、また、それぞれどのような力が身につくのかを知り、将来子供と関わる仕事に就いたときに活かせるようにする。

また、室内遊びと外遊びにはたくさん種類があるので、

室内遊び→ごっこ遊び、お絵描き、ブロック遊び

外遊び→鬼ごっこ、ボール遊び、砂遊び

のそれぞれ3つずつに絞って探究する。

3 仮説

外遊びは広い外で自由に体を動かすが、室内遊びは決まった教室の範囲内で落ち着いて遊ぶ。このような違いがあるため、室内遊びと外遊びとで身につく力にも違いがある。

4 研究方法

- ・幼稚園、保育園を訪問して、幼児の遊んでいる様子を観察したり、実際に保育者として働いている先生方にインタビューをする。
- ・図書館の本を使用する。

5 研究結果

幼稚園と保育園の先生にインタビューを実施し、室内遊びと外遊びでそれぞれ、どのような力が身につくのかをまとめた。

遊び	身につく力
ごっこ遊び(室内)	表現力、コミュニケーション能力、協調性
お絵描き(室内)	視覚的な認識力、表現力、観察力
ブロック遊び(室内)	集中力、表現力
鬼ごっこ(外)	持久力、判断力
ボール遊び(外)	持久力、視覚的な認識力

砂遊び(外)	集中力、表現力
--------	---------

表から、ごっこ遊びでは表現力とコミュニケーション能力と協調性、お絵描きでは視覚的な認識力と表現力と観察力、ブロック遊びでは集中力、表現力、鬼ごっこでは持久力と判断力、ボール遊びでは持久力、視覚的な認識力、砂遊びでは集中力と表現力が身につくことがわかった。

6 考察

室内遊びと外遊びとで身につく力に違いはなく、「遊ぶことでどんな発見をするか」「友達や先生との会話や活動などからどういう影響を受けるか」によって、身につく力がさまざまであることがわかった。

表現力→自分でやりたいこと作りたいものをイメージして想像を膨らませる遊び

視覚的な認識力→身の回りのものを観察して特徴を掴んだり、ものとの距離感を掴んだりする遊び

集中力→自分が作りたいものを比較的長時間集中して作る遊び

持久力→走ったり激しい動きをしたりする遊び

コミュニケーション能力→友達や先生と会話を通して活動する遊び

協調性→自分の立場や相手との関わり方を学べる遊び

判断力→うまくいくためにどうすればいいかを素早く考えて実行する遊び

7 おわりに

幼児にとって、室内遊びも外遊びも、これからどんどん大きくなっていく過程で必要な能力を身につけるのに欠かせない遊びだと思った。そして、幼稚園、保育園の先生方は、遊びを通して子供達が自分自身で成長できるように、決してやることを強要せず、子供達がやりたいことの手助けをしたり、身に危険が及ばないように見守っている程度の役割をされていることが知れたので、将来自分たちが子どもと関わる仕事に就いたときに役立てたいと思った。

本研究の制作にあたり、石巻穀町幼稚園様、さくら保育所様にはインタビューの協力を賜りました。心より感謝申し上げます。

【参考文献】

金子龍太郎『子供の発達がわかる本』 ナツメ社出版 2011年7月21日出版

河原紀子『子供の発達と保育の本』 学研プラス出版 2011年3月15日出版

『見方・考え方』を意識した授業づくりによって児童の心理は変化するのか

教育保育12班

【要旨】

ICTを基盤とした教育が普及し続けている一方で、“教育の質”は高まっていないと考えた。そこでさまざまな教科の中から道徳分野に焦点をあて道徳授業の一例として「見方・考え方を意識した授業」という授業づくりがあるのを見つけた。

この授業づくりを意識した授業により、児童の心理は変化するのではないかと仮説を立てた。その結果、意識した授業づくりを行うことで児童の心理が変化することがわかった。

1 はじめに

ICTを基盤とした教育が小学校～高校で普及し続けている一方、“教員の質”は高まっていないと感じた。

またICTばかりに頼ると、「自分で考え粘り強く取組む力」が低下する恐れがあると知りその力を育てるのは教員だと思った。

そこでさまざまな教科の中から道徳分野に焦点をあて道徳授業の一例として「見方・考え方を意識した授業」という授業づくりがあるのを見つけ、この授業を広めていくことで児童の心理・自我を育てていきながらも質の高い学びを受けられる教育(児童)・授業をすること(教員)が出来ると考えた。

※見方・考え方：

特に各教科等において思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方のことである。

児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、ご知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

2 研究の目的

「見方・考え方を意識した授業とは何かを知ることで、SDGs(持続可能な開発目標) 4「質の高い教育をみんなに」という目標達成につながる。将来教員を目指す私達が意識することで、「質の高い学び」を受けられる教育(授業)を実現することができる。

3 仮説

「見方、考え方」を意識した授業によって、児童の心理は変化する

4 研究方法

①安部日珠沙氏

『幼児における道徳性の萌芽 一憧れの気持ちを基盤とした人の形成』2018年の論文を読み、道徳授業における定義を理解する。

②『法政大学文学部渡辺弥生研究室ーVLFプログラムについてー』、③『LITALICOジュニア/sstとは？例や教材、発達障害との関わりを解説します「専門家監修」』記事を読み、実際に他県で行われて

いる道徳教育授業例を調べる。

④著／文部科学省視学官 田村学 著／黒上晴夫

『考えるってこういうことか！思考ツールの授業』の書籍を読み、思考ツールとはなにかを調べた上で、具体的な授業づくり例を調べる。

⑤文部科学省ホームページ

『小学校学習指導要領(平成 29年告示)』で日本の小学校指導の定義を確認する。

5 研究結果

① 道徳授業に関する論文の定義

幼児における道徳性の萌芽 憧れの気持ちを基盤とした人の形成

道徳性の萌芽とは、幼児が様々な活動を楽しむ中で、自身の環境に対する憧れの気持ちを言葉によって明瞭に表現していく過程で自分を顧み、自分の精神性を発達させるように援助する営為だと言える。

② 実際他県で行なわれている道徳教育授業の例について一つは、vlf 教育プログラムがある(vlfとは Voice of Love and Freedom の略称で思いやり育成プログラムのこと)静岡県、青森県、滋賀県などの地域の小学校で取り入れられている。

vlf教育プログラムでは、

(1) 自分の気持ちや考えを相手に伝える力

(2) 友だちの気持ちや考えを推測する力

(3)対人葛藤に適切に解決する力

という3つのことを目標にしている。

vlf教育プログラムを取り入れたVLF授業は、主人公一人の気持ちを追いながら状況を理解していくのではなく、できるだけさまざまな人の立場を考え、気持ちや考えに気づき、葛藤し、解決する過程までをリアルに体験することができる。

メリットとして、教師と生徒の信頼関係の向上、さまざまな登場人物の視点に立てる、授業に全員参加の体験重視、時間をかけ、理解を深められるが挙げられる。

③ さらにSST(ソーシャル・スキル・トレーニング)による支援が他県で取り組まれている。株式会社 LITALICO・監修者:井上 雅彦『LITALICOジュニア/sst とは？例や教材、発達障害との関わりを解説します「専門家監修」』の記事によるとSSTとは、Social Skills Trainingの頭文字をとったもので、さまざまなプログラムを通して対人関係など社会生活に必要なスキルを学んでいく支援のことである。

実施例の県として、三重県、北海道、佐賀県などの地域の小学校で取り入れられている。SSTには、対人関係などの困難を減らして、社会生活を送りやすくなる効果が期待される。

SSTの練習方法はロールプレイや表情の描かれた絵カードを使って、「この場合は相手はどういう気持ちだったのか」「嫌なことをされたらどう思うのか」など相手の気持ちを想像する練習をすることで、この場面で干渉されると嫌な気持ちになるんだというのが身についてきて、相手との距離感を取れるようになるなどの効果が考えられる。

その際教師の言葉のかけ方は、

「どうしてこうなったの(状況把握)」のみでなく「こういうやり方があるよ(スキル提示)」と指導する。

また「こうしたところは良かったよ(継続・拡充のポイント提示)」を児童にアドバイスした上で、「もっと違うやり方はあるかな(スキルの発見)」と課題を提示させる。

④ 著／文部科学省視学官 田村学 著／黒上晴夫

『考えるってこういうことか！思考ツールの授業』によると

「思考を“スキル”として捉えることで、視点を設定し視点ごとに言えることを意識した上で意識したことをつなげて文章にすることで、より多くの子供が考えを深めたり表したりできるようになる(=思考スキル)。」

と示されていた。

児童が意欲的に道徳活動を行うためには、一人一人が意欲的で主体的に取り組むことができる表現活動や話し合い活動を仕組んだり、学んだ道徳的価値に照らして、自らの生活や考えを見つめるための具体的な振り返り活動を工夫したりすることが必要である。

④【授業(児童・先生)】・情報を可視化した思考ツール

(1)思考力という大きなワードを分解して考える

例 比較する、分類する、関連づけるなど▶具体化する
子供に対して

(i)考えましょう、真剣に考えましょう→×

(ii)比べて考えてみましょう、分類して考えましょう→○

しかし...

(ii)を実践しても子供には理解できない。

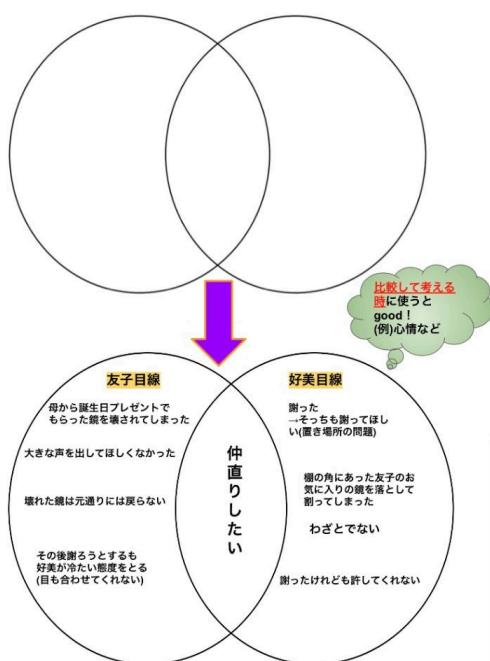
⇒思考ツール(シンキングツール)の必要性が生まれる

思考スキルを鍛えるに当たって思考スキルを鍛える効果的な実践方法例としていくつか挙げられているが、その中で

- ・分類して考えるために『ベン図』を用意する
- ・ウェビングマップ(イメージマップ)を活用する

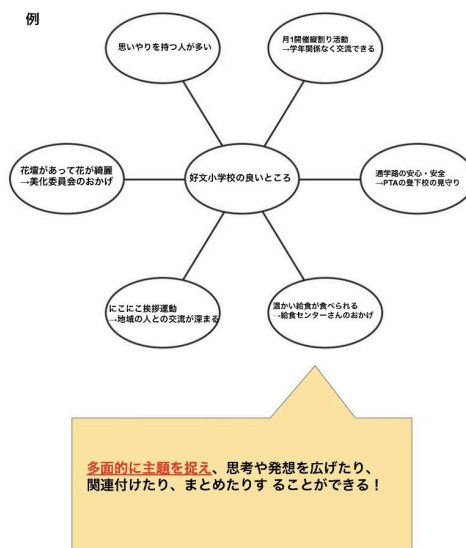
この2つを実際に私たちが作った。

ベン図を使った例



ウェビングマップ(イメージマップ)を活用

例



大量の情報を図やグラフにまとめることで

データを目で見て簡単にわかり表現することができるため、

分析や意思決定のための情報の可視化ができる。

またコミュニケーションの向上に役立つ共通理解を図り、意思決定を促進する。

思考スキルは育てるというよりも習慣化させることが大切だと分かった。

また、同書籍によると、体験の生かし方を工夫した指導も大事である。

児童は、学校の教育活動や日常生活において様々な体験をしている。その中で、様々な道徳的価値に触れ、自分との関わりで感じたり考えたりしている。道徳科においては、児童が日常の体験やそのときの

感じ方や考え方を生かして道徳的価値の理解を深めたり、自己を見つめたりする指導の工夫をすることが大切である。

道徳の授業について、好文館高校の2年生を対象に調査した。
「道徳の授業は1日にどれくらいあったか。」という調査では、週に1回あったが81.5%、週に2回あったが18.5%となった。
「道徳の授業の中でグループワークなど話し合う機会がどれくらいありましたか。」という質問では、毎時間あったが71.6%、たまにあったが24.7%、なかったが3.7%となった。
毎時間あった or たまにあったと答えた人を対象の「グループワークはどんな感じで行いましたか。」という質問では、授業用プリントで話し合っ共有が73.1%、ホワイトボードを使ったが16.7%、その他(授業用プリントで話し合っ共有、ホワイトボードを使った表や図を使ってグループでまとめた、授業用プリントで話し合っ共有して話し合い共有、自分の意見の発表)が10.2%となった。
「道徳の授業を受ける前と後で考えや理解が深まったり考えが変わりましたか。」という質問では、はいが71.6%、いいえが4.9%どちらとも言えないが23.5%となった。

アンケート結果から分かることとして、道徳授業は「週1」で行われていてグループワークなどを通して話し合う機会が「毎時間あった」の回答が最も多かった。しかし、毎週道徳の授業があっても授業用プリントのみでグループワークを行った学校が多くグラフやホワイトボードを使いながら行っている学校が少ないというアンケート結果が得られた。

6 考察

上記の結果から「見方、考え方」を意識した授業によって、児童の心理は変化することがわかった。地域で実際に行われている道徳の授業を実践し、県や全国各地に広めていくことで教育の質が改善しSDGsの目標達成につながると考えた。

また道徳の授業だけでなく他の教科にも適用していくことで、児童の心理が向上し小学校から幅広く物事を捉えて行くことができ授業の質も上がっていくなど、児童の教育は将来より良くなるのではないかと考えた。

例えば、国語で用いると読解力や思考力だけでなく、コミュニケーション能力や創造性を高める効果が、英語で用いるとコミュニケーション能力だけでなく、異文化理解の促進の効果や英語学習への意欲向上の効果があると考えた。

7 おわりに

今回は道徳分野に絞って、研究を進めていったが他教科でどんな授業づくりが行われているかさらに探究し、将来私たちが教員となった際に、児童のために質の高い学びを受けられる教育の環境をつくりたい。

【参考文献】

安部日珠沙氏

『幼児における道徳性の萌芽 一憧れの気持ちを基盤とした人の形成』2018年

『法政大学文学部渡辺弥生研究室ーVLFプログラムについてー』

『LITALICOジュニア/sst とは？例や教材、発達障害との関わりを解説します「専門家監修」』2022年7月29日

著／文部科学省視学官 田村学 著／黒上晴夫
『考えるってこういうことか！思考ツールの授業』

文部科学省ホームページ
『小学校学習指導要領(平成 29年告示)』

部活動の地域移行化により教員の業務を軽減できるのか

教育・保育13

【要旨】部活動の地域移行化により教員の業務を軽減できるかについて研究した。私が立てた仮説は業務の負担軽減が可能であり、地域との連携強化にもつながると考えた。結果は、業務負担の軽減が可能であり、持続可能な教育社会の構成にも繋がることが分かった。

1 はじめに

部活動の地域移行化とは、今まで部活動の指導を学校が主体となってきた部活動を新たに地域スポーツクラブなどが主体となって活動する地域クラブ活動に移行することだ。主に教員の業務負担の軽減を図り行われている取り組みのことである。

2 研究の目的

部活動を支えてくれている顧問の先生方の負担を少しでも減らす方法はあるのかを調べたかった。また、部活動を通じて地域住民の交流を増やし地域の活性化に繋がることで、生徒の成長促進や地域社会の教育活動参画の機会が増えることで持続可能な教育環境の構築が実現させる方法を研究し将来の社会に活かしたいと思ったからだ。

3 仮説

部活動の地域移行化することで、学校側と教員の業務の一部負担の軽減が可能あり、地域との連携の強化にも繋がる。

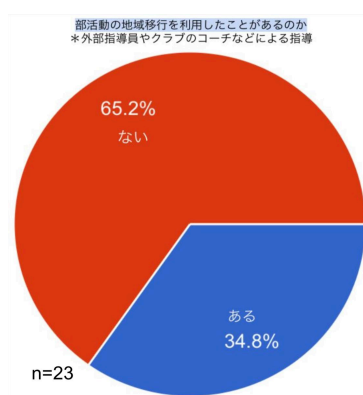
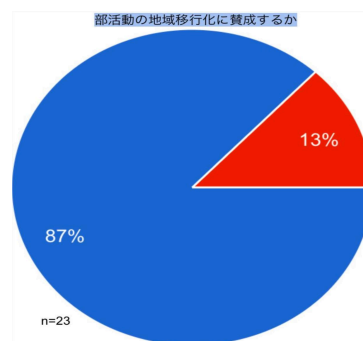
4 研究方法

市内の中学校教員23名にGoogleフォームでアンケートアンケートで調査を行った。

5 研究結果

・部活動の地域移行化に賛成するか、について賛成する意見が87%、反対は13%となった。賛成意見では働き方改革の一環や業務負担に繋がるという意見が多く挙がり、反対意見で挙げたのはセキュリティ問題や安全面での懸念が主な理由となった。

・部活動の地域移行化を利用したことがあるかに対する質問では、約65%がないと回答した。ないと回答した意見では指導者不足や体制が整えられてない、利用の手順・方法が分からないなどの意見が主に挙がりました。



6 考察

結論は教員の業務負担の軽減に繋がると考えた。地域移行に賛成する意見も多く、現在教員の働き方について問題視されているため今後も進めていくべきである。教員の長時間労働の大きな問題の一つは部活動であると考察できる。しかし、部活動の指導を目的として教員になった先生方もいると考える。なので地域移行化はそれぞれの部活単位で希望制にすることで双方が納得する結果になると考えられる。さらに部活動の地域移行化について明確に具体化すれば移行化に対する理解も深まると考える。地域の学生や保護者、地域住民のニーズの調査し、どのような部活動が求められているのかを明確化することが必要である。部活動の地域移行を利用する機会を増やすことで地域移行化が活発になる。また指導者不足に対する問題では、市の教育機関などで指導者リストを作成し利用する場を提供するのが良いと考えた。また、地域との連携を強化し、より良い環境を整えることが今後求められる。

7 おわりに

部活動の地域移行化は、教育の質を向上させるだけでなく、地域コミュニティの活性化にも寄与能性がある。今後は、地域の特性を生かした取り組みや、教員、地域住民、保護者が一体となった協力体制の構築が重要である。また市の教育機関機関と連携することで教員と部活動はより良い関係が保たれると思う。今後の選挙では部活動の地域移行化にも重点を置く公約なども増えればもっと活動的になるはずだ。

【参考文献】

https://www.mext.go.jp/content/20220727-mxt_kyoiku02-000023590_2-1.pdf

2022年7月29日